

に指名されました。委員は日本、アメリカ、ソ連、ハワイ、カナダ、韓国、マライ、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、フランス、ドイツ等の諸国の地理学者17名より成り、本学の正井先生もその1人に加えられています。委員会の中心的なテーマは、太平洋圏の造山帯の地形学的諸問題、近代化のインパクトの地域性、地形分類と土地利用調査の基準の統一の問題、島嶼地理、太平洋圏のアトラス編纂の促進等になりそうです。

学内にも不完全講座の充実、文教育学部の新築、体育、音楽の大学院昇格等、色々の問題をかかえています。まあこの夏の概算提出までは責任がありますから、せいぜい頑張ります。

## 雑 感

松 井 勇

### 1. 研究について

旧制高校の理科には地理という科目がなかったことが、地理学を専攻するようになった直接の動機である。というのは丁度反抗期だったので高校で習った科目はすべて嫌いになった。そこで今まで習ったことがなく、入学試験のない学科ということで地理を選んだ。ところが東大の地理にはその年から入学試験があり、入試まぎわに非常にあわてた。当時テーマは教授から与えられ、学部で「分布現象」、大学院で「人文地理学の統計的研究」をした。人文地理から地理学に入ったが、主に農業地理を研究した。現在、那須扇状地を研究のフィールドにとり、最近「農業からみた那須野盆地の地域分化、戦後の変貌」を発表した。那須扇状地を選んだ理由は、食料事情の悪かった昭和22年頃、教鞭をとっていた自由学園の農場が那須野にあり、いろいろと便利なのでそこを根拠地として研究を行ったからである。地理学を研究して以来約40年間をふりかえてみると、旅行をするのが嫌いなので最近「我、誤ってこの道に入れり。」と思いはじめた。しかし別に後悔をしているわけではなく、たゞ自分に適した職業が別にあったのではないかとおもう。

### 2. 日常生活

毎朝5時起床、大学まで45分の道のりを歩いていく。午後6時帰宅、8時か9時就寝の規則正しい生活をおくる。趣味は学問研究であり、研究がうまくいき一段落ついた時や、十分な準備の後講義をする時が一番楽しい。自分が旅行するのはめんどうだが様々な自然景観人文景観をみるとは非常に楽しみで、NHKの新日本紀行、特派員報告は欠かさずみている。

### 3. 女子大生、特にお茶大生について

学習面においては、まじめにノートを取りそれを覚えることは上手である。試験の答案などから見ると、論理的思考はまだ十分ではない。

大学は論理的に思考することを訓練する場であるから、女子の場合大学を卒業してすぐに家庭に入っても、論理的にものを考えて日常生活を処理し子供を教育していけば、長い目でみるとそれは日本の社会にとって非常にプラスである。そこに女性としての地味ではあるが真の価値がみいだされるのではないか。これが女子学生一役に期待するところである。

最後に、浅井教授が本学においてになったことと、人文地理学講座が実験講座になったことが最近の喜ばしいでき事である。(この文は松井先生にインタビューしてまとめたものである)

(文責 馬場・遠藤)

## 新 任 メ モ

浅 井 辰 郎

お茶大転任の挨拶状を必要最少限出した所、返事を下さった方の大部分は「新時代の女子教育をよろしく」という意味のものであった。中に親しい友人だが「女子大学は呑気でいいだろう」というような、相手の顔を見返してやりたいのが僅かだがあった。この両極端に関して私の現在の気持ちをここに覚え書きにしておき、まかり間違っても、呑気などというイメージに惑わされて教育と研究を疎かにすることのないよう自戒の資としたい。

まず「呑気」の方から片付けよう。去年から今年にかけて40回位の講義中に何度もあった体験だが、1、2年の学生諸姉から鋭く要点を衝いた意見や質問が出た。その或るものはかつて陸軍士官学校出身者から受けたものに比肩する位、俊鋭なものであった。私はこれに大いに満足すると共に、従来にも増して講義の準備に精力を傾けている事実をお話しすれば、呑気の1件は雲散霧消すると信ずる。

さて「新時代の女子教育」とは何か。返事を下さった方の要求はいろいろあろうが逐次述べるようなものだろうと信じる。それにしても難しい問題ではある。広い方から云うと第1に、人生経験が増しても女性に関して解らない点も増して来るということである。価値判断なり、論理なりにおいて男性同志とは異った部分を発見することである。もちろんこれは同一教育水準においてである。よい例かどうかわからないが北欧に数年住んだ若い日本婦人の「北欧には流行がないからしっかりした各季節の衣服を何着か持っていれば衣服に気を遣うことは何もない」という話を取次ぐと、男性は概して「北欧の堅実さを表わしている」と肯定するが、女性は「そんなことはあり得ない。おかしい」と否定の方向に向う。このような価値判断の差を承認するとなると、第2に女子教育の場合森羅万象の中には男性の論理では論述が不充分あるいは不可能になる部分が存在するのではないかということである。第3にここは国立大学であるという問題である。ここでよく聞くことは「学生